

新潟市医師会報600号発刊に寄せて

元 新潟市医師会 会長 大 川 賢 一

新潟市医師会報発刊50周年600号発行を迎え誠におめでとうございます。昭和46年4月創刊以来50年毎月欠かすことなく発行されましたことは担当理事、会報編集委員、担当職員のお陰であるとともに、寄稿戴いた会員並びに各界の皆様のご協力の賜物と、敬意と謝意を表する次第であります。

以前より独自の基準で各種刊行物、文献等大事に保管してあり、当然ながら新潟市医師会報も随時保管してあります。医師会役員就任以後に刊行された会報300号記念号（1996年4月）、400号記念号（2004年7月）、500号記念号（2012年11月）を読み返し、寄稿された先生方のお顔を思い浮かべながら特集号の貴重さをあらためて実感させられた次第です。会報の目的は繰り返すまでもありませんが、300号記念号巻頭言に稲月作之助元会長が創刊号巻頭言に当時の会長宮尾正雄先生が示された要望を書いておられます。

- 1) 広報的な役割をもつもの
- 2) 会員から読んで頂けるもの
- 3) 生涯学習に役立つもの

- 4) 親睦を深めるための温かいコーナーをもつもの

この50年前の指針は現在も全く変わりなく、この機会にあえて記載させて頂きました。

今後デジタル化、ペーパーレスが進み、会報も医師会ホームページで読むことになるかもしれませんが、本会報は題字も表紙の絵も会員の先生方によるもので、特に絵は液晶画面でみるより紙に印刷されたものをじっくり拝見したいものです。特に大学同期の小林晋一先生に毎号描いて頂いている所為もあるかもしれません。300、400、500号記念号の表紙絵は何れも萬代橋が描かれ、併せて周辺の建造物、風景の変化も見ることができますが、600号の表紙はどのようなになるのか発刊が待たれます。

コロナ禍収束の見通しが立たない中、市民の健康、医療、福祉に医師会の役割は増す一方、病院も診療所もコロナ禍、少子高齢社会により一層の変革が必要となってくるのではないのでしょうか。いつの時代にあっても会報は医師会活動に必須のものであり、会報の益々の発展、充実を祈念しお祝いとさせていただきます。